

～ 立冬と小雪 ～ 木枯しの季節

11月の二十四節気は、上旬の立冬（りっとう）と下旬の小雪（しょうせつ）です。冷たい北寄りの風が吹き始め、積もるほどではない雪が舞い始める季節です。

この時期の天気は、日本列島が移動性高気圧に覆われ、穏やかに晴れたと思えば、低気圧が通過して冷たい雨を降らせるような変化が大きいことが特徴です。

日本の東に低気圧、西に高気圧が存在すると一時的に西高東低の冬型の気圧配置になることがあります。そのことを示す現象として冷たい北寄りの風が吹き、その風を『木枯し（こがらし）』と呼びます。

その年に初めて吹いた木枯しを【木枯し1号】と気象庁は発表しますが、残念ながら2号以降は発表しません。

この気象庁の発表の条件は、東京と大阪で少し基準が異なりますが、東京基準だと

- ① 10月半ばから11月末の期間
- ② 西高東低の気圧配置
- ③ 風向は北～西北西
- ④ 風速が約8m/s以上の風を観測した時

東京と近畿地方（大阪）でのみ発表されます。

秋晴れは長続きしませんので、旅行・レジャー・スポーツには晴れ間を上手に活用したいものです。

（次回号は～大雪と冬至～）

